

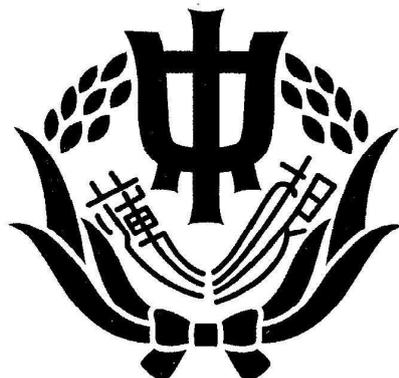
令和元年度 研究紀要

主体的に学習に取り組む 生徒の育成

～各教科における学習課題の工夫と
振り返る学習活動を通して～



沼田市立薄根中学校



I 研究の概要



1 研究主題

主題 主体的に学習に取り組む生徒の育成

副主題 ～各教科における学習課題の工夫と振り返る学習活動を通して～

2 研究主題設定の理由

(1) 生徒の実態との関わり

- ・本校生徒の特徴として授業に真剣に参加し、教師の与えた課題に対して意欲的に取り組むことができる。しかし自ら進んで内容を深めたり、広げたりすることはまだできない。
- ・学習への関心はあまり高くなく、現状を変えようとする生徒は少ない。
- ・振り返り学習を取り入れた活動は生徒に学びの自覚化・意識化をうながしており、継続的に取り組むことが基礎的・基本的な内容を確実に身に付けることにつながっていくと考える。

(2) 指導の在り方との関わり

- ・主体的に学習に取り組むためには、生徒が関心を高く持つ学習課題の工夫が必要である。
- ・指導力の向上のためには、自分以外の授業の参観が効果的である。本校はこれまでも代表授業をはじめ、全職員の参観授業を実践してきており、今年度も互いに授業を見合う中で指導力を向上させていきたい。
- ・今年度は特にメンター部会を中心に校内研修を行い、生徒だけでなく、教師の間でも学び合う関係を作っていきたい。

3 研修内容・方法

(1) 具体化した目指す生徒像

既習事項を基に、様々な情報や出来事を多面的・多角的に受け止め、主体的に判断しながら、課題を解決していくことができる生徒

(2) 具体化した目指す生徒像を達成するための共通実践する手立て

① 学習課題の工夫と振り返る学習活動を授業に取り入れる際の手順

- 1…生徒の実態を捉えると共に、各教科の評価項目から、振り返る学習活動で見たい生徒の言葉や状態を明確化する。
- 2…学習課題を以下の中から設定し、生徒が主体的に考えられるよう授業を構成する。

(1) 生徒が主体的に取り組む課題解決学習

(2) 学んだ知識を生かした活用・探究の活動

(3) 学んだ知識・技能と社会や生活を結びつけた学習活動

- 3…授業の終末場面で振り返る学習活動を行うことにより、主体的に学びに向かう生徒の育成を目指す。

② 本時のねらいが達成されたか、変容が見られたか実践を通して検証する。

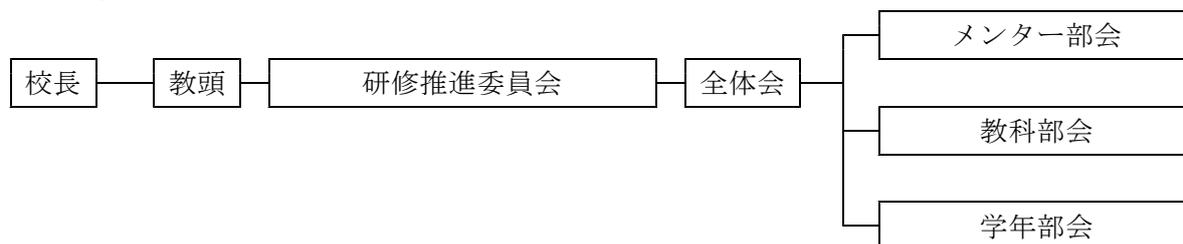
③ 学力検査や調査の問題傾向の周知、結果の分析を生かした授業や指導計画の改善に努める。

④ 学習の手引きを配付して授業でも扱い、家庭学習における学習の習慣が身に付くようにする。

⑤ 授業改善の視点を明確にして、学年部会、教科部会を中心として指導案検討会・授業研究会を行う。

⑥ 全体会にて教職員の指導力向上を目指し、指導法についてのワークショップを定期的に行う。

5 研修組織



目的に応じて、以下の3部会を使い分ける。

(1) メンター部会

メンターとは、仕事上（または人生）の指導者、助言者の意味。メンター制度とは、企業において、新入社員などの精神的なサポートをするために、専任者をもうける制度のことで、日本における OJT 制度が元になっている。メンターは、キャリア形成をはじめ生活上のさまざまな悩み相談を受けながら、育成にあたる。（厚生労働省より）

- ・教職員としてのキャリアを若手、中堅、ベテランの3つに分け、各部会にそれぞれ割り振りをする。
- ・授業検討会、授業研究会、およびワークショップなどの活動を行う。
- ・状況により、メンバーを変えて行う。

部会① 鈴木、反町、田村、星野理	部会② 遠峯、齋藤、原、星野希
部会③ 千明、山田、兵藤、小宮	部会④ 阿部、大河原、歌川

※下線は研修推進委員

(2) 教科部会

- ・授業検討会や授業研究会に参加する。
- ・学力テストやNRTの分析を行う。
- ・「学習の手引き」の充実・課題の工夫を行う。

国語部会 社会科部会 数学部会 理科部会	○大河原、兵藤 ○遠峯、千明 ○原、齋藤 ○鈴木、星野	英語部会 技能教科部会 道徳・総合・特活部会	○阿部、野崎、歌川 ○反町、田村、山田小宮 道徳主任（齋藤）、総合主任（千明）、特活主任（歌川）、養護（倉澤）
-------------------------------	--------------------------------------	------------------------------	---

(3) 学年部会

- ・道徳、学活、総合などの研修を行う。
- ・家庭学習への取り組みを指導し、学習習慣の定着化を図る。

1 学年部会	2 学年部会	3 学年部会
○兵藤、千明、野崎、原、田村	○遠峯、齋藤、山田、星野、阿部	○反町、大河原、鈴木、小宮、歌川

6 研究のあゆみ

指 は、指導案検討 授 は、研究授業・授業研究会 ㊦ は、メンター研修・部会

月日	研修計画 [内容]	経過報告 [○研修の視点 (上段)・明らかになったこと (下段)]
4.9	推 今年度の研修主題・内容等について	○今年度の研修の方向性を示すと共に、各教科で推進できる内容を吟味する。年間を通した校内研修を計画する。
4.15	全 研修主題の設定、授業計画立案、研修計画書	・教師のキャリアを視点としたメンター部会を組織できた。教科ごとの深まりも考え、研究授業の際には教科部会も参加していく。
4.22	全 研修計画の内容検討、学力テスト分析	○生徒理解と学年の特色を把握するため、NRT の結果を教科部会で分析し、共有する。
5.13	全 A訪問に向けて ㊦ 日頃課題に感じていること	・教科だけでなく、学年ごとの生徒の特色を共有することができた。 ○メンター研修で、職員の感じる課題を出して話題とする。
5.27	全 指導主事訪問A	・授業、生徒指導、校務、部活など多岐に渡る課題や解決策を共有することができた。
6.3	全 A訪問まとめ校内研究授業①、各部会の実践報告と研修の方向性	○代表授業者の授業をもとに授業研究会の在り方を考える。 ・授業参観用紙と付箋を使い KJ 法を活用した研究会が開けた。
	授 1-1 理科 「植物の世界 葉のつくりと はたらき」	鈴木教諭 ○光合成シートを活用して単元を見通したことは、生徒の主体的な学習に有効であったか。 ・実験前に結果を予想させた活動により、その後の実験や考察がスムーズにできた。生徒が見通しをもって取り組む事ができた。しかし、振り返るときに、生徒が「光合成に必要なもの」に対して「光」を使っていた。使う言葉をしっかり押さえさせたい。
6.24	授 3-2 道徳 「全国大会を終えて」	反町教諭 ○資料と主発問を工夫したことは、生徒が主体的に道徳的価値項目について考えることに効果的であったか。 ・資料が部活動・ケガから学ぶ内容だったので自分事として考えやすい題材であり、筆者の心情理解がしっかりできていたので生徒は考えやすかった。考え議論する道徳を意識するためにも、始めの問いに対して戻ることにより、意見の深まりを感じられるのではないだろうか。
7.1	全 B訪問に向けた計画 ㊦ 授業づくり	○メンター部会で代表者1名の先生の授業を考え、作っていく。 ・若手の職員に様々な視点のアドバイスができた。振り返りをどのようにしていくか確認することができた。
7.9	授 2-2 家庭科 「朝ごはん大作戦」	山田教諭 ○朝食を栄養教諭と共に考えたことは、生徒が意欲的にメニューを考えることに有効であったか。 ・栄養教諭が分かりやすく話してくれたため、カルシウムの大切さを理解した上で取り組めた。流れが分かりやすく、TT がスムーズであった。作業(献立決め・色塗り)の時間が短かった。学習内容に物足りない生徒もいた。
7.11	授 1-1 社会科	千明教諭 ○単元を通した課題を提示したことは、生徒の主体的な学習に有効

	「古代の歩みと東アジアの世界」		<p>であったか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元を見通して、本時の部分を意識した振り返りができていた。板書とプリントがリンクしていた。上位の生徒は、しっかりと理解していた。能力差が大きいため、資料を読み取らせる際に、発問の工夫が必要である。モニターや実物投影機を活用して資料提示した方が良い。
7.17	授 2-1 理科 「だ液によるデンプンの変化」	星野教諭	<p>○消化について学んだことを、実験で確認したことは、生徒が主体的に学習に取り組むために有効であったか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時の既習事項を使って実験の条件を考えさせたのは、だ液のはたらきを調べることを意識させるのに役立った。教材の準備や質問の仕方など時間短縮の工夫と、生徒の実験技術を向上させていくことが課題である。
9.17	全指B訪問指導案検討会① 全国学力・学習状況調査分析		<p>○国語、数学、英語、生活の班に分かれ、教師全員で全国学テ分析を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科での生徒達の姿を分析し、学校課題として考えることができた。生徒の良い姿にも目を向けることができた。
10.4	授 1-1 保健体育 「陸上 短距離走」	田村教諭	<p>○ ICT を活用して授業を見通したことは、生徒の主体的な学習に有効であったか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT を活用したことによって生徒の意欲が高まっていた。次回への見通しをもたせる振り返りにすることができた。発問を用意しておき生徒の活動を引き出せるようにしておくべきだった。目当ての提示で「正しいフォーム」を「より良いフォーム」にして生徒のレベルにあった授業展開をした方が良い。
10.7	全指B訪問指導案検討会② ☒ 道徳の授業づくり		<p>○学年部会に分かれ、学年道徳の実施に向けた授業づくりをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・副担任が授業をして学年全体で道徳ができるよう、学年全体で授業づくりをすることができた。
10.8	授 2-1 道徳 「体験ナースをとおして」	齋藤教諭	<p>○生徒に問題意識をもたせるため、導入にアンケート結果を活用したことは有効であったか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査から問題意識をもたせることができた。実際に出産した方の体験談を教師がしたことによって生徒が題材に近づくことができた。課題としてアンケートに理由を記述させた方が良かった。
10.16	授 2-1 社会科 「中国・四国地方」	遠峯教諭	<p>○ ICT を活用して変化が明瞭になるように資料提示をしたことは生徒の学習意欲を喚起し単元を見通す課題づくりに有効であったか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・導入や追究の過程で提示した資料が適切であったために、課題について意欲的に追究し、単元の課題を設定することができた。教師の意図する単元の課題とは違った単元の課題を作った生徒への対応法が課題となった。
10.23	授 1-2 英語科	野崎教諭	<p>○単元を通した学習課題の提示は、生徒の主体的な活動を引き出す</p>

	「時刻をたずねよう」		<p>ために有効であったか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・めあてが具体的で必要感があった。本時の授業内で、ドイツのフェンシングチームへの質問を考える時間を取れたらよかった。
11.5	授 3-2 数学科 「関数 $y = ax^2$ 」	原教諭	<p>○スモールステップを活用したワークシートや、ICTを活用したことは主体的に学習に取り組むことに有効であったか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既習事項の復習を取り入れることで課題に自主的に取り組もうとする生徒の姿勢が見られた。具体的で、必要感のあるめあてを設定できると、もっと意欲に繋げることができた。
11.11	全指 B 訪問指導案検討会③ 演習：生徒指導・教育相談 組織的対応を意識して		<p>○メンター研修として、生徒指導・教育相談の立場で様々な状況に対し、組織的対応を判断する演習を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組織的対応のためには職員間の連携が不可欠であり、校長、教頭、生徒指導主事を中心とした職員集団となるよう確認ができた。
11.14	授 2-1 英語科 「接続詞」	阿部教諭	<p>○ICT を活用して接続詞の使用場面を確認したことは、生徒が東京旅行計画を立てる際に主体的に取り組む上で有効であったか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「考える」、「話す」、「書く」の作業が関連していたので、既習事項を用いて東京旅行の計画を主体的に立てることができた。東京旅行の計画を英語で書く必要性を設定する必要があった。
11.20	授 B 訪問・研究授業 授 3-1 国語科 「情報社会を生きる・新聞記事を読み比べよう」	大河原教諭	<p>○文章の内容を分析したり表現の仕方を批評したりする力を身に付けるために、新聞記事を利用したことは効果的であったか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・導入部でのアンケート提示で、新聞を読み比べる学習の必要性をもたせることができた。指導事項を身に付けられる「単元を貫く言語活動」をさらに意識して各時間ごとの授業を設定する。
11.22	授 2-2 音楽科 「歌舞伎 勧進帳」	小宮教諭	<p>○歌舞伎の説明を日常生活と関連づけて説明したことは、生徒が主体的に鑑賞することに有効であったか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先に説明して予備知識があったことによって集中して鑑賞することができた。説明に写真、絵、ICT など活用するとよかった。
12.3	授 1-2 国語科 「楷書と行書の違い」	兵藤教諭	<p>○行書で自分の名前を書くことは、生徒が主体的に行書を学ぶのに効果的であったか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆ペンを使って自分の名前を書くことにより主体的に取り組めた。楷書と行書の名前を比べることにより違いを振り返りやすかった。
12.4	授 3-1 英語科 「接触節」	歌川教諭	<p>○基本文を活用した活動（カルタ）は、生徒が主体的に表現をするために効果的であったか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・接触節を読み札に取り込んだカルタゲームで生徒が接触節を経験的に理解するのに良かった。
11.25	全 B 訪問まとめ、教育水準参加にむけて		<p>○B 訪問についてまとめることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が主体的に取り組むためにも単元の課題が大切となる。
12.16	全 授業実践まとめ、研究紀		<p>○1 年間の研修を振り返り、次年度に向けての方向を考える。</p>

	要のまとめ方、アンケート	・次年度の校内研修や教育水準について理解することができた。
1.14	<input checked="" type="checkbox"/> 今年度の成果と課題、次年度に向けて	○アンケート結果より本年度の校内研修を振り返り、次年度に向けた課題や解決に向けた手立てを考える。
2.3	<input checked="" type="checkbox"/> 今年度の成果と課題、次年度の研修について	・今年度のまとめを行い、次年度に向けてそれぞれが考えることができた。

Ⅱ 各教科の実践



国語科学習指導案

令和元年11月20日(水) 第5校時
3年1組 指導者 大河原幹夫
指導教室 3年1組教室

授業の視点

文章の内容を分析したり表現の仕方を批評したりする力を身に付けるために、新聞記事を利用したことは効果的であったか。

I 育成を目指す言語能力

- 文章中における語句に注意して、書き手の立場や意図を読み取る能力。
- 複数の文章を読み比べるなどしてそれぞれの構成や展開の違いについて評価する能力。
- さまざまな文章に表れているものの見方や考え方に触れて、自身の意見や考えを形成していく能力。

II 単元名 情報を読み解く 教材名「新聞記事を読み比べよう」

III 考察

(1) 生徒の実態

・関心・意欲・態度

積極的に発言したり、話し合いの中での確な良い意見が出せたりする生徒もいるが、全体的には自分の意見や考えをもととしなかったり、それをもっていても発信し、表現できなったりする生徒が多くいる。

NRT 教研式テストから考察した結果は次のとおりである。偏差値平均 51.2、標準偏差 6.9 で数値の分布は全国平均から見ると狭く、学力差は大きくないと言える。ただし、個々を見ると、基礎的なことから個別に指導をしていくことが必要な生徒もいる。また、本単元に関わるアンケートとして新聞や雑誌、テレビ・インターネットなどの各メディアの利用状況についてアンケートを実施したところ、「ニュースや社会の情報が気になる」という設問に対して、はい91% 最も多く利用するメディアとしてテレビ100%、インターネット97%、新聞17%という回答を得た。一つのニュースや情報について複数のメディアを利用すると回答した生徒は26%であった。利用するメディアに偏りはあるものの、世の中のニュースや流れに対して興味をもっており、メディアに触れる機会が多いと思われる。

・読む能力

読書活動に勤しむ生徒が比較的多く見られる。しかし、読まれる書籍の種類には偏りがあり、いわゆる「ライトノベル」と呼ばれるものが好まれている状況である。NRT 教研式テストの結果からは、説明的文章の要点や要旨を読み取る学習はよい取り組みがみられるが、叙述に即して詳細に読み取ることが不得手であるという結果がであった。文章の概要は捉えられるが、丁寧に読み、表現から筆者の考えや意図を正しく読み取ることができていないと考えられる。また、アンケートや普通の授業の観察から、説明文や報告文などの学習に対して苦手意識がある生徒が多く、主体的に学習できない生徒が多い。

・言語についての知識・理解・技能

語句や漢字についての知識は、NRT 教研式テストの結果から、全国平均をやや上回っていることが明らかになった。しかし、語句や表現技法などについては未定着の部分も多い。書き手・話し手の意図を読み取れるようになるための語彙不足は否めない。メディアに触れる機会が多いものの、情報を正確に読めなかったり、情報発信者の意図が受け止められなかったりすることが考えられる。

(2) 教材観

メディアリテラシーの重要性が叫ばれるようになって久しい。我々は多くのテレビや新聞、インターネットなど様々なメディアに囲まれて暮らしている。これら多くのメディアから提供される情報は、発信者の意図が多分に含まれている。それを他のメディアや自分の価値観などと照応して、評価や分析をし、自身の考えを形成していく必要が求められている。

生徒たちを見ても、アンケート結果からも分かるように、インターネットをはじめ、さまざまなメディアに触れており、また受けている影響も大きい。特に生徒の多くが情報を得るインターネットはその特性上(誰もが自由に不特定多数の人に対して情報を発信しやすい)、個人の意見が特に表現しやすいメディアであるため、情報発信者の意図が極めて偏りやすいことは、生徒たちも理解はしている。しかし、新聞については、その存在位置から生徒たちの信頼性は高く、かなり記事内容を信用しており、感化されやすい。それだけに、情報に掲載される写真やグラフなどの資料、読者や視聴者を誘導しようとする表現などを考慮したり分析したりしながら読む態度が必要である。その際有効なのはメディアの特徴を理解しつつ、一つの事案に対して多面的な見方を心がけていくことだ。

情報が氾濫している現在、情報の中心的な発信者としてのメディアにどのように対応するかは大きな問題である。「メディアから送り出される情報は現実そのものではなく、送り手の観点から捉えたものの見方である」という筆者の論に学習者は目から鱗が落ちる思いであろう。また、「現在は、情報通信システムの発展により、誰もが情報を発信できる時代」になっているがゆえに、送り手としてのメディアリテラシーの重要性をも述べている。

筆者の主張は、「新聞記事を読み比べよう」で具体的かつ体験的に学習することができる。同一の案件を記事にしても、視点の異なりによって、見出しの立て方、掲載した写真や資料などによって、記事の内容には大きな違いが出てくることを確認することにより、メディアの伝える情報とは何であるのかを考えて読むことができるようになるであろう。

(3) 校内研修との関わり

本年度の校内研修のテーマは「主体的に学習に取り組む生徒の育成～各教科における学習課題の工夫と振り返る学習活動を通して～」である。また、昨年度より薄根中学校ではNIEを活用した取組を行っており、本年度は2年目となる。その中で、国語科では生徒が主体的に取り組むための工夫として、生徒の生活にある話題や課題を題材とした活動をしてきており、自分の事を紹介したり、友達の事を知る活動に意欲的に取り組む姿が見られる。新聞活用として日直の話しとして自分の記事に対する感想を話す活動もしてきており、新聞に対して、生徒は日常的に接するようになってきた。本単元では、その新聞を活用することで、これからの新聞への見方が変わる、大切な場面であることを生徒が感じることで、より主体的に授業に取り組む事ができるのではないだろうか。

(4) 教材の系統

本単元では「語句の効果的な使い方を捉える」「文章の構成や表現の仕方を評価する」ことを目標に指導していく。説明文としての教材の系統を以下のとおりにとまとめた。特に関連が強い教材として「語句の効果的な使い方を捉える」という目標においては1年の教材「この小さな地球の上で」の「語句の意味を的確に捉える」が挙げられる。また「文章の構成や表現の仕方を評価する」という目標においては2年次に学習する「人間は他の星に住むことができるのか」の「構成について自分の考えをまとめる」が挙げられる。説明文の構成などの表現に対して「自分の考えをまとめる」から「評価する」という学習に発展させていく必要がある。

学年	1 年	2 年	3 年
教材	クジラの飲み水	人間は他の星に住むことができるのか	間の文化
目標	文章の展開を捉える 筆者の表現の工夫を捉える	全体と部分との関係に着目して読む 構成について自分の考えをまとめる	論理の展開に注意して主張を読み取る 文化の違いについて自分の意見を持つ
教材	食感のオノマトペ	壁に残された伝言	フロン規制の物語
目標	事実と筆者の考えを読み分ける オノマトペの意味や効果について自分の考えをもつ	筆者の思いを捉える 筆者のものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ	文章の展開の仕方・小見出しの意図や効果を考える 「科学技術の発達」に対する筆者の考えや自分の考えを広げる
教材	玄関扉	動物園でできること	情報社会を生きる・新聞記事を読み比べよう
目標	事実と意見と理由を読み分ける 文化の違いについて自分の考えをもつ	例示の効果に注意して主張を読み取る 筆者の考え方について、知識や体験と関連づけて自分の考えをもつ	語句の効果的な使い方を捉える 文章の構成や表現の仕方を評価する
教材	この小さな地球の上で	達人のことば	「文殊の知恵」の時代
目標	語句の意味を的確に捉える ものの見方や考え方を広げる	読み比べ、共通点と相違点を考える 仕事や生き方について意見をもつ	筆者の主張を捉える 社会について自分の意見をもつ

IV 指導方針及び支援

- ・自分自身の意見をもてるように促すとともに、その意見を表現させるようにしたい。口頭での発表が苦手な生徒も多くいる。そのような生徒にも表現の機会を与えるために、ワークシートなどを用意し、記述で表現できるようにする。
- ・自分の意見や考えがより深まっていけるように、話し合いの場を設定する。
- ・本校で取り入れているNIEを教材として活用し、新聞に触れる機会を増やすきっかけとする。
- ・新聞やメディアに対してその発信の仕方に注目できるような授業を展開し、新聞などを多角的な視点で読めるようにする。

- ・教科書に挙げられている新聞資料を本単元の導入に使用し、まとめの段階では最近の話題になっている記事を取り上げて生徒の学習意欲を喚起していく。
- ・ワークシートを用いて学習を進める。ワークシートに「振り返り」の項目を設け、学習の定着状況を見取り、次時の授業に生かしていく。
- ・新聞を活用した言語活動の際も、必要に応じて教科書に戻ったり関連させたりしながら指導を進めていく。
- ・直感的な意見や考えでなく、「ことば」に着目した思考ができるように促す。

V 単元の目標・指導計画および評価計画（全4時間予定、本時は4時間目）

		評価規準		
		関心・意欲・態度	読むこと	言語についての知識・理解・技能
本文から「メディアリテラシー」の重要性を理解し、実際にメディアが与える情報の意図を読み取れるようになる。		身の周りにおけるメディアからの情報に関心をもち、進んでその情報を読み取ろうとする。	メディアリテラシーの重要性を理解し、メディアが伝えようとしている意図を読み取るとともに、書き手が主張を効果的に伝えるために行った工夫を捉え、評価している。	書き手の目的に応じた言葉の選び方や文章の形態・展開に違いがあることを理解する。
本時のねらい (主な学習活動)		評価項目 (○…おおむね満足できる状況 ◎…十分満足できる状況)		
		関心・意欲・態度	読むこと	言語についての知識・理解・技能
教科書に掲載されている二つの新聞記事の違いを考えるとともに、本文を読み、メディアリテラシーの観点から記事を読む意識をもつ。		◎自分の身のまわりにあるさまざまなメディアを想起し、本文の内容と重ね合わせたり、具体的な例などを挙げたりすることができる。 ○自分の身のまわりにあるさまざまなメディアを想起し、本文の内容と重ね合わせようとしている。 (発言・ワークシート)	◎教科書に掲載されている二つの新聞記事と、本文とを関連させながら読み「メディアリテラシー」の概要をつかむことができる。 ○本文の叙述から「メディアリテラシー」の概要をつかむことができる。 (ワークシート)	
本文を通読し、メディアの特徴を捉えるとともに、「メディア・リテラシー」の必要性について読み取る。 「メディア・リテラシー」の重要性を主張するための筆者の工夫を考える。			◎メディアの特徴を、本文の叙述から理解することができるとともに、事例を挙げながら説明できる。 ○メディアの特徴を本文の叙述から理解することができる。 (発言・ワークシート)	
			◎メディアリテラシーについて本文の叙述から理解し、その重要性を伝えるために筆者が、文章にどのような工夫をしているか考えられる。 ○メディアリテラシーについて本文の叙述から理解し、それを説明するための各段落の役割について考えられる。 (発言・ワークシート)	
新聞記事を読み、その語句や表現、写真などを分析し、メディアの特徴を理解する。			◎新聞や参考資料を読み、記事の内容を伝えるために適切な語句や資料等が使われているか分析することができるとともに、メディアの特徴を体験的に理解することができる。 ○新聞や参考資料を読み、記事の内容を伝えるための語句や資	◎新聞記事中に使用されている語句が、筆者のどのような意図によって使われているか考え、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 ○新聞記事中に使用されている語句が、筆者のど

		料等が使われていることを話し合いを通して確認することができるとともに、メディアの特徴を理解することができる。 (ワークシート・発表)	のような意図によって使われているか、いくつか考えられている。 (ワークシート・発表)
--	--	---	---

VI 授業中における生徒指導の工夫

(1) 多面的な生徒理解の充実

- ① 日々の授業や事前のアンケートを通して生徒の実態の理解を図る。
- ② 生徒のつぶやきや表情、ノートの記述などを授業にいかせるようにする。
- ③ 多くの生徒が授業に参加しているという意識をもてるようにするために、適宜学習成果を教師のところに見せに来るようにさせる。
- ④ 机間指導をし、学習に対する取り組みの姿勢や進捗状況を確認する。

(2) 自己存在感や自己決定の場を与える工夫

- ① 生徒が達成感を得られるようにするために、教師や周囲の仲間が認めていける場面を設ける。そのために誰もが安心して自分の考えを示せるように、挙手による発言だけでなく、ワークシートなどを用意して記入させ、教師がチェックし、助言や肯定的な声かけ・評価をする。
- ② 比較的容易な課題を与え、それについて最後まで取り組めるようにし、達成感をもたせる。
- ③ しっかりと考えられるように、時間を確保する。また、間違えることを恐れずに答えられるような雰囲気をつくるために発問に工夫をし、机間指導をしながら声をかける。

(3) 共感的な理解ができる工夫

- ① 仲間の発言に対して良さを見いだし、互いに認め合う雰囲気を醸成し、生徒の発言・解答に対して、その考えを尊重するような言葉がけを教師が行うようにする。

VII 本時の学習

- (1) 目 標 新聞記事の語句や表現、写真などを分析し、メディアの特徴を理解することができる。
- (2) 準 備 教科書 ワークシート ホワイトボード 既習事項確認カード
- (3) 展 開

学習活動および予想される生徒の反応	時間	支援・指導の留意点および評価
1. メディアを視聴するときのポイントを復習するとともに 本時の学習のめあてを確認する。 ・「メディアの特徴」と「メディア・リテラシー」などの確認。	10	<ul style="list-style-type: none"> ・ 11月上旬に実施した「オリンピックマラソン会場変更」に対するクラスの意見と、新聞記事を読んだ後のクラスの意見を提示し、比較させ、その変化について考えさせることで本時の学習意欲を高められるようにする。 ・ 教科書の内容である既習事項から、メディアの性質はどういうものなのかメディアの「利点」と「限界」をキーワードにして確認させる。 ・ 本時の学習に期待がもてるようなめあてにする。 ・ 本時の授業の前に、あらかじめ本時で使用する新聞記事に目を通させておく。
<p>本時のめあて：新聞記事を読み、その伝え方を分析・評価しよう ～メディアの報道の偏りを見破れ！～</p>		
2. 与えられたメディア（新聞）の情報である「東京オリンピックマラソン会場変更」の記事を読み、どんな観点で切り取られたものなのか読み取る。 ・ 内容……東京から北海道へ開催（否定的） ・ 立場……東京 ・ 地域……日本（東京を中心） など 3. なぜ新聞を読んだ後、自分たちの「東京オリンピックマラソン会場変更」に対す	15	<ul style="list-style-type: none"> ・ 興味をもって取り組めるように、比較的最近にあった時事ニュースを教材として取り上げる。 ・ 既習事項である「事実の切り取られ方」を確認させ、この新聞記事では、どのような事実が切り取られているかを学習者全体の共通の確認事項としておく。 ・ 新聞記事は二紙準備しておく。 ・ 自分たちの「東京オリンピックマラソン会場変更」に対する評価が変わった理由を、新聞の語句、

<p>る評価が変わったのか新聞記事から考える。 (個々での新聞記事分析) 予想される生徒の反応 ○内容：変更否定的 ・予算が増える・急なことだから ・話し合いが不十分(話し合いをしていたら選手に悪影響)など ○表現：否定的な文末や語句 ・落胆・合意なき決定 など</p>		<p>リード文、資料写真などにどのような工夫がなされているか調べさせる。 ・細かな表現部分(語句など)は指摘するのは難しいと思われるが、積極的に指摘させたい。また、新聞記事の筆者の主観やバイアスが掛かっているところはないか考えさせていく。これらのことをワークシートに記述させる。</p>
<p>4. 個々で考えた分析を交流し、見方を広げ、深めていく。(班別学習)</p> <p>5. 各班で話し合ったことをまとめ、発表し、クラス全体で見方を広げ、深め、新聞記事の読み方を一般化する。</p> <p>6. 別の視点で捉えた文章(会場変更に肯定的)を読んだ上で、新聞2紙の評価をする。</p>	<p>1 5</p> <p>・個々の意見を単純に集約するだけでなく、それぞれの評価や分析に対して、理由を明確にして交流できるようにする。 ・生徒たちが活動しやすいように分析の観点を明確にしておく。 ・班長に活発な話し合いが進むよう促す。なかなか充実した話し合いにならない場合には教師が机間指導しながらサポートする。 ・ホワイトボードに自分たちの考えをまとめる。 ・細かな表現(ことば)一つをとっても深い読みがなされることを確認させたい。</p>	<p>・自分の価値観で評価をしてかまわないものとするが、メディアの特徴(限界)から考えた場合ではどのような評価がなされるかについても言及する。</p>
<p>予想される生徒の反応 ・変更理由である暑さについて書かれていないなんてずい。 ・切り捨てられる部分があるのがメディアの特徴ともいえるのではないかな。だからこれでいいと思う。</p>	<p>5</p>	<p>A) 十分満足の生徒への発展的手立て メディアの特徴を確認させ、われわれがメディアにどのように接していく必要があるのかを考えさせる。 B) 十分満足な状況になるための補充的手立て 会場変更に否定的な内容、表現を新聞記事から一つ示して新たな気づきを促すとともに、新聞に書かれていない内容があることの原因を考えさせる。 C) 概ね満足の状況になるための補充的手立て 教科書に書かれていたメディアの特徴を示し、本時の学習活動と照らし合わせて理解につなげる。</p>
<p>評価(○…おおむね満足できる状況 ◎…十分満足できる状況 評価の方法:ワークシート) ◎新聞や参考資料を読み、記事の内容を伝えるために適切な語句や資料等が使われているか分析することができるとともに、メディアの特徴を体験的に理解することができる。 ○新聞や参考資料を読み、記事の内容を伝えるための語句や資料等が使われていることを話し合いを通して確認することができるとともに、メディアの特徴を理解することができる。</p>		
<p>7. 本時の授業で学んだことを振り返る。</p>	<p>5</p>	<p>・今日の学習でわかったこと、あるいはメディアに触れるときに生かしていけそうなことを記述させる。 ・人の振り返りを聞いて、納得した発言についてメモしておくように伝える。</p>

《目標とする生徒の意識》
筆者の言っていたとおり、テレビや新聞などのメディアの情報は、作り手の意図により様々な操作がなされている可能性があるのだな。自分の考えをもつときも、多面的に物事を見る習慣が必要なのかもしれない。実際に新聞などのメディアを見たときに、そのメディアが何を伝えようとしているのか正しく読み取りたい。授業で取り組んだ新聞の分析をテレビや雑誌記事など様々なメディアに触れる場面で生かしてみよう。

国語科学習指導案

令和元年12月3日(火)第3校時

1年2組 授業者 兵藤 泰明

場所：1年2組教室

1 題材名 楷書と行書の違い

2 本時の学習

(1) 本時の目標

○ 行書で自分の名前を書くことにより、行書の特徴を理解する。

(2) 準備

テレビ 実物投影機 ワークシート

(3) 展開

過程(時間)	主な学習活動	指導上の注意点および支援
つかむ 10分	1 本時のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">行書で名前を書こう。</div>	・本時のねらいを知る。行書の特徴を考えながら、ワークシートに書いていくことを知る。 後半は、自分の名前を行書などで書いてみることを知る。 ・パワーポイントを使用し、字体の特徴を視覚的にとらえさせる。
追究する 30分	2 楷書と行書を比較しながら書く。	・ワークシートを使い、筆ペンなどで空欄に書いてみる。 ・行書にはどんな特徴があるか考える。
	3 行書で書かれた自分の名前を筆ペンなどで練習する。	・自分の名前の行書を見て、ワークシートに書いてみる。一人一人の名前を行書で書いて、参考作品を個人別に渡す。
	4 行書の特徴について考える。	・点画が連続している。 ・点画の変化。 ・筆順の変化
まとめる 10分	5 本時の活動を振り返り、ワークシートに記入する。	・行書で練習した感想を書く。 ・次時の書写の作品には、名前を行書で書くようにさせる。 ・本時の評価を行う。

本時の評価項目

○ 自分の名前を行書で書いている。

<十分満足> 行書の特徴を知ることができる。

社会科学習指導案

令和元年 7月11日 (木)

第1学年1組 場所 1年1組教室

指導者 千明 隼

1 単元名

古代国家の歩みと東アジアの世界 (東京書籍 P38～51)

2 本時の学習

(1) 本時の目標

資料の読み取りを通して、聖徳太子はどのような国をつくらうとしたのかをまとめることができる。

(2) 準備 教科書・資料集・用語集・ノート・授業プリント

(3) 展開

過程 (時間)	主な学習活動	指導上の留意点
つかむ 15分	1. 東アジアの仏像と日本の仏像の共通点を考察する。 2. 当時の中国・朝鮮のようすを確認する。 3. 東アジアの文化を取り入れようとした聖徳太子を理解する。	・なぜ、国が違うのに同じ形の仏像がいるのかを考えさせる。 ・当時の中国や朝鮮は日本より先進的であったことに気づかせる。 ・飛鳥文化にも触れるように留意する。
めあて：聖徳太子はどのような国をつくらうとしたらう。		
追究する 20分	4. 冠位十二階・十七条憲法・遣隋使について用語集・教科書を活用して調べる。 5. その3つの政策から、聖徳太子のめざした国づくりについて自分なりに考察する。 6. 聖徳太子のめざした国づくりについて、班で意見を交換する。	・調べたことを発表させる。 ・調べられなかった生徒は板書させる。 ・教科書や資料集を参考にして考察させる。 ・他の人の意見も授業プリントに書かせる。
【評価項目】 ○おおむね満足：天皇中心を中心とする政治について記述することができる ◎十分満足：中国や朝鮮の影響や政策の具体例を絡めて記述することができる。 (観点・評価方法) 社会的な思考・判断・表現 授業プリント・発言		
まとめる 5分 5分	7. 本時を振り返る。 8. 単元のめあてを確認する。	・本時の内容を取り入れながら説明するよう留意する。
単元のめあて：古代における天皇中心の政治と外国との関わりについて考えよう。		

社会科学習指導案

令和元年10月16日(水) 第5校時
2年1組 指導者 遠峯 健一

I 単元名 「中国・四国地方」

VII 本時の学習

(1) 目標 交通機関によって結びつけられた中国地方と四国地方に起きた産業や人口の変化を読み取る活動を通して、地域的特色の変化や地域の課題を追究するという意欲をもてるようにする。

(2) 準備 <教師>ワークシート、スライド、拡大プリント、
<生徒>教科書・資料集・用語事典、ワークシート

(4) 展開

学習活動	時間	支援・指導上の留意点
1 本時の学習課題を知る。	5	○中国・四国地方の地域内や他地域とのつながりを学習をしていくことや、本時が「単元の課題」を設定する時間であることを確認させる。
めあて 中国・四国地方と他地域とのつながりを示す資料を基にして、単元の課題を立てよう。		
2 一人一人が、本単元の社会的事象に関わる資料を基に、疑問や調べたいことを考える。	20	○本州四国連絡橋によって中国地方と四国地方が1つにつながり、往来が容易になった変化について気付かせるために、高松市から自動車を利用した場合における3時間で到達できる本州側の範囲に関する2つの資料を提示し、その変化を読み取らせる。 ○瀬戸内海の島々を複数の橋で連結しながら本州と四国を結び付けている橋の総称が本州四国連絡橋であることを理解させるために、そのうちの一つである瀬戸大橋の写真を提示する。 ○本州四国連絡橋や各高速道路で中国地方と四国地方が結ばれた結果、中国・四国地方全域にわたって多くの産業が盛んになる一方で、一部の地域では人口が減る現象が見られるなどの地域変化が起きていることを理解させるために、産業や人口に関する4つの資料を提示し、資料の都市を地図で確認しながら、資料から考えたことをワークシートに記入するように促す。 ○単元の課題づくりにつなげるために、資料から考えたことや疑問点、調べたいことをワークシートに記入させる。
3 学級全体で、社会的事象について調べたいことの共有や焦点化を図る。	15	○発言をしやすくしたり、いろいろな考えに触れさせたりするためにグループをつくり、一人一人の気づきや考えを発表させる。 ○単元の課題づくりにつなげるために、資料から分かったことや考えたことや疑問点、調べたいことをグループごとに整理させ、学級全体に発表させる。 ○産業の発展や人口の変化と交通機関との関連に気付けるようにするために、資料から考えたことや疑問点、調べたいことの中から、高速道路の延伸や新規の高速道路の増加、フェリー航路の減少のために、移動時間や人の往来が変化することなどを考えさせる。 ○グループで発表された意見を基に、キーワードを活用して、産業の発展や人口の変化が交通機関と関連していることをまとめる。
4 本時のまとめをし、一人一人が学習の振り返りをする。	10	○出されたキーワードを基に、単元の課題を文で書かせる。 ○生徒が書いた単元の課題をまとめ、単元を通して追究していく単元の課題を設定する。 ○本時の振り返りとして、中国・四国地方の学習で初めて知ったことや参考になった意見を記述・発言するように促す。

【評価項目】(関心・意欲・態度)

○中国・四国地方をつなぐ交通機関に関する資料や産業や人口の変化に関する資料を基に、交通機関と産業の発展や人口の変化の関わりについての疑問や調べたいことを考えている。

◎中国・四国地方をつなぐ交通機関に関する資料や産業や人口の変化に関する資料を基に、交通機関と産業の発展や人口の変化の関わりについての疑問や調べたいことを考え、表現している。

(観点・評価方法) 発言・ノート

数学科学習指導案

令和元年11月5日(火)第1校時
3学年2組(男子5名、女子9名)2階少人数教室
指導者 原 泰章

1. 単元名 関数 $y = a x^2$ 2. 関数 $y = a x^2$ の利用 (数研出版 p.116)

2. 本時の学習

(1) 本時の目標 式の分かっている放物線と直線の交点の x 座標から直線の式を求めることができる。

(2) 準備 教師 中学校数学3、ワークシート、OHC 等
生徒 中学校数学3、ノート、問題集

(3) 展開

過程(時間)	主な学習活動	指導上の留意点及び支援
つかむ (15分)	1. $y = a x^2$ 上の点や $y = a x^2$ 上の点の座標の求め方を復習する。また、 $y = a x$ について直線上の1点の座標から a の値を求める方法を復習する。	<ul style="list-style-type: none"> x 座標を代入して y 座標を計算する方法を確認することで、課題を解く手がかりとする。
	めあて 交わっている放物線と直線の交点から直線の式を求めることができる。	
	2. P116 例題3 の課題を確認する。 ($y = x^2$ に着目すればできそうだな。)	<ul style="list-style-type: none"> 復習の問題との違いに目をつけさせ、課題解決の見通しを持たせる。 提示にOHCを使い、具体的な図を利用して視認しやすくする。
追求する (30分)	3. 教科書 P 116 例題3 を解く。 ・個別で解く。 ・座標の求め方を全体で共有する。 ・ $y = a x$ の a の値の求め方を全体で共有する。 4. P116 問6 を解く。 (1) 2点 A, B の座標の求め方を発表する。 (2) 1次関数 $y = a x + b$ の式を求める方法を板書し、説明する。 ○予想される生徒の姿 A 1次関数の式を求めることができる。 B A, B の座標を求められる。 C 座標を求めることができない。	<ul style="list-style-type: none"> 点 A の y 座標を求めることに着目させるため、ワークシートを利用する。 点 A の y 座標を考えやすくするため、点 A が $y = x^2$ 上の点であることを着目させる。 個別で解くことができている生徒を褒め、自信を持たせるようにする。 お互いの考えを共有するために、なるべくできている生徒に板書や説明をさせる。 比例の式の求め方について、代入ができている生徒を中心に周りの生徒に教えあわせる。 解き方は全体で確認して共有させる。 個別で解くだけでなく、近くに生徒同士で考えを出し合い課題に取り組ませる。 忘れていた生徒も多いので、1次関数の式を解くのに連立方程式を使っていたことを確認する。 周りの生徒にも解き方を教えるとともに、チャレンジ問題に取り組ませる。 連立方程式などの1次関数の解き方を確認し、活用させていく。 $y = 1/2 x^2$ の x に値を代入させて計算させていく。
まとめ (5分)	6. 放物線から交点の座標を求めることで、直線の式を求めることができることをまとめる。 7. 振り返りをする。	<ul style="list-style-type: none"> どのようにして解いたかそのやり方を簡潔にまとめるようさせる。 求め方を理解できたかや、問題を解くときに利用できそうかなど、学習を振り返らせる。

【評価項目】

- おおむね満足 放物線上の交点から直線の式を求めることができる。
◎十分満足 放物線上の交点から連立方程式など活用して直線の式を求めることができる。
(数学的な技能、ノート、ワークシート、発表)

理科学習指導案

令和元年 6月 3日(月) 第5校時

第1学年1組 場所 理科室

指導者 鈴木 広之

1 単元名

植物の世界 葉のつくりとはたらき ～ 光合成で使われるもの ～

2. 本時の学習

(1) 本時の目標

- ・光合成によって使われる物質を調べるために実験を行い、まとめができる。

【科学的思考・表現】

(2) 準備

- ・植物の葉 ・試験管 ・試験管立て ・ゴム栓 ・ストロー ・アルミ箔 ・石灰水

- ・ワークシート ・教科書

(3) 展開

過程(時間)	主な学習活動	指導所の留意点及び支援 ※努力を要する生徒への指導の手立て ○おおむね満足 of 生徒への指導の手立て
つかむ 5分	1. 前時の復習をして光合成シートに書き込み、本時のめあてを確認する。	・光合成がどこで、何を使い、何を作るのか総合的にまとめられるよう、また、単元を通して使えるようシートを活用する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">めあて：光合成に使う物質を見つけよう</div>		
10分	2. あらかじめ用意しておいた本時の実験について確認する。	・A,B,C の試験管に息を吹き込み、A,B にはタンポポの葉を入れ、B にはアルミ箔で周囲を覆う。同じ条件、異なる条件を確認し、対照実験となっていることを紹介する。
追究する 10分	3. 実験の結果を予想する。	・A,B,C の試験管中の二酸化炭素の有無を予想する。
5分	4. C の試験管の意義を考える。	・C は比較のために行うことを理解できるようにする。
5分	5. 実験を行い、結果を共有する。	・石灰水を入れ、反応を見る。試験管を振りすぎると反応が消えてしまうことを注意する。
まとめる 10分	6. 結果から考察を考え、まとめる。	・考察は個人で書けるように注意しておく。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 【評価項目】 科学的な思考・表現 ○光が当たると二酸化炭素が吸収されることを導きだし、まとめることができる。 (十分満足：論理的に) (ワークシート、発言) </div>		
5分	7. 考察を発表し、二酸化炭素が光合成によって使われたことを確認する。	・光合成シートに記入し、まとめていく。
5分	8. 本時の活動を振り返り、記入する。	・次時に繋がるよう、光合成シートの未記入の部分に着目させる。

理科学習指導案

令和元年 7月17日(水)第5校時
2年1組 場所 理科室
指導者 星野 理恵子

- 1 単元名
動物の生活と生物の変遷 第2章 動物のからだのつくりとはたらき～消化と吸収～
- 2 本時の学習
 - (1) 本時の目標
だ液とデンプンを混ぜ合わせた溶液をヨウ素液とベネジクト液を用いて調べ、だ液にはデンプンを分解するはたらきがあることを理解する。
 - (2) 準備
教科書、ワークシート、試験管、ビーカー、ストロー、紙コップ、温度計、ヨウ素液、ベネジクト液、デンプン溶液、スポイト、沸騰石、試験管ばさみ、マッチ、燃えさし入れ
 - (3) 展開

過程(時間)	主な学習活動	指導上の留意点及び支援 (★努力を要する生徒・☆おおむね満足できる生徒)
つかむ 3分	1. だ液がどのようなはたらきをするのか考える。	・前時の消化についての考えを確認する。
	めあて だ液にはデンプンを分解するはたらきがあることを確かめよう。	
追究する 32分	2. 実験の手順の説明を聞く。 3. だ液とデンプンを反応させる。 4. 試験管を温める。 5. デンプンの有無を確認する。 6. 麦芽糖の有無を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・実験方法から、何が明らかになるのかを考えさせ、ワークシートに記入させる。 ・保護眼鏡を着用させ、実験時の留意点を伝える。 ・Aの試験管にデンプン溶液とだ液を入れ、Bの試験管にはデンプン溶液と水を入れて混ぜ合わせる。A、Bの試験管を約40℃の湯に入れ温めた後、A、Bの溶液を半分ずつ別の試験管C、Dにとり分ける。だ液を入れないB、Dの試験管を用意するのは、だ液のはたらきをはっきりさせるために行う対照実験であることを確認する。 ・約40℃に温める理由を考えさせる。 ・試験管A、Bにヨウ素液を加え、色の変化を確かめ結果を記録する。 ・試験管C、Dにベネジクト液を加え色の変化を確かめ、結果を記録する。 ・ベネジクト液を加熱するときは、沸騰石を必ず入れる。突沸が起こることを周知し、液の量や試験管の向きなど十分に注意させる。
まとめる 15分	7. 実験結果よりだ液のはたらきについて考え発表する。 ・各試験管の色の変化から、だ液のはたらきについてわかることを一人一人が考察し班内で話し合い、全体で発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ★考察は個人で書けるようにしておく。 ☆デンプンが分解するようすを粒子のモデルを使って考えさせ図などでかかせる。 ・ホワイトボードを配布し、話し合いの結果をまとめさせる。
	振り返り だ液にはデンプンを麦芽糖などに分解するはたらきがあることを確認し、なぜ麦芽糖などに分解される必要があるのか疑問を持つ。	

<p>評価項目【思考・表現】(観察、ワークシート、発表) ○おおむね満足 ◎十分満足</p> <p>○ 実験結果をもとに考察し、だ液にデンプンを分解するはたらきがあることをワークシートに記入できる。</p> <p>◎ 実験結果をもとに考察したことを自分の言葉で文章にまとめ、図やモデルを使って表現している。</p>

英語科学習指導案

令和元年11月14日(木) 5校時

第2学年1組 場所 2年1組教室

指導者 阿部 哲也

1 単元名 Unit 5 Universal Design

2 本字の学習

(1) 本時の目標

- ・接続詞 (if, that, when, because) と既習事項を用いて旅行計画を立て、英文でまとめることができる。【表現の能力】

(2) 準備

- ・教科書 ・ノート ・ワークシート

(3) 展開

過程(時間)	主な学習活動	指導上の注意点及び支援
つかむ 10分	1. 与えられたテーマについてペアで1分間の対話をする。 2. 本時のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">東京旅行を計画しよう</div> 3. 接続詞の復習をする。	・隣同士でペアを作り、与えられたテーマについて対話をさせる。対話のスタートはテーマに沿ったものにさせるが、その後は対話の展開によりテーマから離れて別の話題についてもよいことを確認する。 ・旅行計画に使える表現について確認させる。
追求する 25分	4. 東京旅行の計画を個人で考える。 5. グループ内で東京旅行について口頭で発表をする。 6. 口頭発表した旅行計画を英文でまとめる。	・考えがまとまらない生徒には表現の参考となる英文が載ったプリントを配布し、自分の考えが発表できるようにする。2カ所程度は発表するようにさせる。考える時間を2分与え、文字に頼ることなく即興的に発表させる。 ・東京旅行で訪れたい場所について、1人1分以内で発表させる。 ・口頭で発表した計画を、文法等の正確性を加えて英文でまとめさせる。英文が書けない生徒には資料を参考にするようにさせる。
まとめる 10分	7. 完成した英文の計画をグループ内で発表する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">【評価項目】表現の能力 ○接続詞を用いて旅行計画を書くことができる。 (十分満足：正確に) (ワークシート)</div> 8. 本日の活動を振り返り、ワークシートに記入する。	・1人1分程度で順番に発表させる。 ・発表を聞く際には聞く態度に注意させる。 ・本時の振り返りとして、接続詞の意味や用法について記述するように促す。

英語科学習指導案

令和元年10月23日(水) 第3校時 1年2組教室

指導者 野崎 希枝 ALT Norman

1 単元名 NEW HORIZON English Course

Unit7 ブラジルから来たサッカーコーチ

2 考察

(1) 本単元に関わる生徒の実態

本学級は、男子14名、女子19名、計33名の学級である。授業中における教師の観察や事前調査によって本クラスの実態を次のようにとらえた。

【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

授業中の発言やコミュニケーション活動の取り組みを見るとコミュニケーションへの関心・意欲は比較的高い。1学期に行ったALTに自分の友だちを紹介するパフォーマンステストでは、既習の文法事項を活用して話すことができる生徒がほとんどであった。また、振り返りでは、「勉強したことを使って、またALTと話がしてみたい」と記述する生徒が多くいた。事前調査では、「自分の気持ちや考えを英語で話したいと思いませんか」という問いに対し、「とてもそう思う」または「そう思う」と回答した生徒が18名、「思わない」と回答した生徒が13名であった。「とてもそう思う」「そう思う」と回答した生徒からは、「英語が好きだから」「将来使えるから」「話せるとかっこいいから」などの理由が挙げられた。「思わない」と回答した生徒からは、「英語が苦手だから」「英語を話すことは難しいから」などの理由が挙げられた。英語に対する苦手意識をもった生徒が半数弱いることが分かった。英語が苦手な生徒も、英語で話すことに楽しさを感じられるよう、コミュニケーション活動を工夫していく必要がある。

【外国語表現の能力】

授業中における教師の指示や質問に対しては、ほぼ全員が正しく答えることができている。音読練習やコミュニケーション活動に標準的な発音や文における基本的なイントネーションを意識して取り組むことができる生徒が多い。「書くこと」においては、5文程度で自己紹介文を書く活動を行った際に、ほとんどの生徒が既習事項を用いて英文で表すことができた。事前調査では、「あなたが力を伸ばしたいと思う活動は、話すこと、聞くこと、書くことのうちどれですか」という問いに対し、22名の生徒が「書くこと」と回答した。「書くこと」と回答した生徒からは、「もっと長文を書いてみたいから」「話せても書こうとすると分からなくなるときがあるから」「書くことが一番難しい、苦手だから」などの理由が挙げられた。書くことで表現する際に、スペルミスを気にして難しさを感じてしまう生徒が多くいることが分かった。

【外国語理解の能力】

「聞くこと」に関しては、ほとんどの生徒が英語での指示を聞いて理解し、スムーズに反応することができる。事前調査では、「あなたが好きな活動は話すこと、聞くこと、書くことのうちどれですか」という問いに対し、「聞くこと」を選んだ生徒が14名であり、「聞くことは分かるから」「簡単だから」などの理由が挙げられた。「読むこと」に関しては、苦手と感じている生徒が数名いるが、ほとんどの生徒は教科書本文の概要をつかむことができる。しかし、単元テスト、実力テストなどの所見の英文について、すばやく要点をつかむことにはまだまだ課題があるので、教科書以外の長文に触れる機会も作ることで、理解力を養っていきたい。

【言語や文化についての知識・理解】

本単元で身に付けさせたい文法事項は、疑問詞<Who~?>、<What time~?>、<Which~?>である。ほとんどの生徒が、既習の<What~?>、<How~?>の疑問文の作り方を理解しているため、同じ方法で文を組み立てることができる。しかし、be動詞、一般動詞の疑問文の作り方の違いを理解できていない生徒も数名おり、<What time is~?>と<What time do you~?>の文を正しく組み立てられないことが考えられる。正しい語順を身に付けられるように授業の帯活動を利用して継続的に活動時間を設定

し定着を図っていきたい。

(2) 教材観

本教材は、光太がブラジル人のサッカーコーチ、パウロと対話をしながら、パウロの娘や、ブラジルの現地時間、ブラジルでの生活の様子などについて知っていく過程が表されている。日常生活での会話に等しい設定になっているため、生徒が即興的に話すことに役立つ教材である。新出言語材料としては疑問詞①Who、②What time～?、③Whichを用いた疑問文を扱う。これらの疑問詞を学習することで、相手への質問が多様化するため、会話の表現の幅を広げることができる。

本教材は、中学校学習指導要領英語の目標（2）「日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の概要を捉えることができるようにする」、（3）「関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができるようにする」を踏まえ、内容（1）言語材料 エ文法事項 b「疑問文のうち、助動詞（may, will など）で始まるものや or を含むもの、疑問詞（which, whose）で始まるもの」を目指して構成されたものである。

生徒はこれまでに疑問詞 what, how を学習してきたため、be 動詞や一般動詞の疑問文の語頭に疑問詞を置くという語順を理解した上で学習を進めることができる。

(3) 指導方針

「つかむ」過程では、生徒が目的意識をもって学習に取り組むことができるよう、来年沼田市にやってくるドイツのフェンシングチームにインタビューをしようという実際の場面を想定した課題を設定する。

「追究する」過程では、まとめの活動にスムーズに取りかかれるよう、<Who~?、What time~?、Which~?>を使ってインタビューで用いる質問を1時間ごとに書かせる。また、まとめる過程の表現活動につながる疑問詞の文に慣れ、定着を図るために、帯活動で既習の疑問詞<What~?、How~?>を使ってペアで small talk を行う。

「まとめる」過程では、追究する過程までで定着した疑問詞の文を自分の言葉で表現し、実際に使えるよう、ドイツのフェンシングチームにインタビューする練習として、友だちとインタビュー活動を行う。

3 単元の目標

疑問詞<Who~?、What time~?、Which~?>を使って、ドイツのフェンシングチームへのインタビューを作成することができる。

4 評価規準及び指導の計画概要（7時間予定 本時は3／7）

評価規準	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	友だちと協力しながらコミュニケーション活動に取り組んだり、疑問詞を使って友だちに質問することができる。
	外国語表現の能力	ドイツのフェンシングチームに質問したいことを英語で正しく表現することができる。
	外国語理解の能力	疑問詞を用いた質問を聞いて、聞かれていることを理解することができる。また、教科書本文の内容を読みとることができる。
	言語や文化についての知識・理解	疑問詞を用いた文の形や意味、用法を身につけている。また、教科書の内容から時差や、国による言葉の違いを理解している。

過程	時間	目標（主な学習内容）	評価項目（評価方法） ○おおむね満足 ◎十分満足	観点			
				関	表	理	知
つかむ	1	○単元の目標を知る。 疑問詞<Who>について文構造・意味・用法を理解し、知らない人について尋ねることができる。	○疑問詞<Who>について理解し、例文を参考にしながら Who を使った質問を作ることができる。 ◎疑問詞<Who>について理解し、Who を使った質問を作ることができる。 (ワークシート・観察)	○			○
追究する	2	○本文概要理解を通して疑問詞<Who>の用法の理解を深める。	○教科書を正しく音読でき、概要を問う問題に半分以上正答できる。 ◎教科書を正しく音読でき、概要を問う問題にすべて正答できる。 (ワークシート・観察)			○	
	3	○疑問詞<What time>について文構造・意味・応報を理解し、時刻を尋ねることができる。	○疑問詞<What time>について理解し、適切な語順で友だちに質問することができる。 ◎疑問詞<What time>について理解し、What time を使った質問を作ることができる。 (ワークシート・観察)		○		
	4	○本文概要理解を通して疑問詞<What time>の用法の理解を深める。	○教科書を正しく音読でき、概要を問う問題に半分以上正答できる。 ◎教科書を正しく音読でき、概要を問う問題にすべて正答できる。 (ワークシート・観察)			○	
	5	○疑問詞<Which>について文構造・意味・用法を理解し、どちらなのかを尋ねることができる。	○疑問詞<Which>について理解し、例文を参考にしながら Which を使った質問を作ることができる。 ◎疑問詞<Which>について理解し、Which を使った質問を作ることができる。 (ワークシート・観察)		○		○
	6	○本文概要理解を通して疑問詞<Which>の用法の理解を深める。	○教科書を正しく音読でき、概要を問う問題に半分以上正答できる。 ◎教科書を正しく音読でき、概要を問う問題にすべて正答できる。 (ワークシート・観察)			○	
	まとめ	7	○学習した疑問詞を用いて、ドイツのフェンシングチームに聞きたい質問を作り、友だちと練習をする。	○メモを見ながら、疑問詞を使い分けインタビューすることができる。 ◎質問したいことに合った疑問詞を適切に用いてインタビューすることができる。 (観察)		○	

5 本時の展開

(1) 本時の目標

○What time~?を用いて時刻を尋ねることができる。

(2) 準備 教師：教科書、キーセンテンスカード、
生徒：教科書、ノート、ファイル、振り返りシート

(3) 展開

過程 (時間)	主な学習活動	指導上の留意点及び支援	
		JTE	ALT
つかむ 20分	1. あいさつ 2. read&remember 3. small talk これまで学習した疑問詞を用いてペアで会話をする。 4. 導入 教師と ALT の対話を聞いて、What time の意味や使い方を理解する。 5. めあての提示 本時のめあてを振り返りシートに記入する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">めあて 時刻をたずねよう！</div> 6. 口頭練習 パワーポイントで示される絵を見ながら口頭練習を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・帯活動で前時までの復習をしながら、たくさん英語を話すことで、学習に対する積極的な雰囲気を作る。 ・ What time を使って ALT と対話することで、What time の意味に気付かせる。 ・発音できていない生徒に正しく発音できるよう指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・会話が続けられない生徒にヒントを与え、会話を続けられるように支援する。 ・十分に口頭練習をさせることで、What time の文を定着させる。
追究する 25分	7. 言語活動 ペアで Guess who ゲームを行う。ワークシートの6人の人物から1人選ぶ。(隣の人には内緒にする) What time ~?を使って、友だちに3つ質問をし、相手が選んだ人物が誰か当てる。 8. ワークシート What time~?の基本文を書く練習と、What time~?を使ってドイツのフェンシングチームに聞きたいことを自分で考えて書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が活動にスムーズに取りかかれるよう ALT と例を示す。 ・自分自身のことについて表現できるようにするために、定型文だけでなく、自分のことについても書く練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ JTE と例を示す。 ・1人で発音できない生徒を支援するために、机間巡視をする。
まとめる 5分	9. 振り返り 本時のめあてに沿って学習して言えたことや感じたことなどを振り返りシートに記入する。	<ul style="list-style-type: none"> ・机間支援しながら、しっかり振り返りができている生徒を数名指名し、発表させ、個の学びを共有させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・机間支援

英語科 学習指導案

令和元年12月4日(水) 第6校時
 3学年1組 場所 3年1組教室
 指導者 歌川愛望
 野崎希枝
 Norman

1. 単元名 Unit6 Striving for a Better World (NEW HORIZON English Course 3)

2. 本時の学習

(1) 本時の目標

接触節を理解し、自分が紹介する人について接触節を使って書くことができる。

(2) 準備

教科書、ワークシート、カルタ

(3) 展開

過程 (時間)	主な学習活動	指導上の留意点及び支援	
		JTE	ALT
つかむ (10分)	1. small talk ペアで相手の情報を聞き取る会話をする。 2. 本時のめあての確認。	会話が終わらないように支援。	分からない表現など支援。
Today's goal: 基本文にならってパートナーの好きなものについて説明しよう!			
追求する (25分)	3. パワーポイントで文法の確認。 4. カルタゲーム	ALT に続けて英語を発音しているか見る。 活動支援	英文を読み上げる。 カルタを読み上げる。
まとめる (15分)	5. 授業の最初の small talk で得たパートナーの好きなものについての英文を作成。	本時学んだ、名詞を修飾する文をきちんと使えているか確認。 間違いの多い内容は全体に共有。	英文添削しながら机間巡視。
【評価項目】 (review sheet) ○おおむね満足：名詞を修飾する文を正確に書くことができる。 ◎十分満足：名詞を修飾する文を正確に書き、今まで習った文法を活用して2文以上書くことができる。			
	6. 本時の振り返りシート記入。		

音楽科 学習指導案

令和元年 11月21日 第2校時

2年2組 場所 音楽室

指導者 小宮 美由紀

1. 単元名

さまざまな音楽文化 ―日本と世界―

歌舞伎「勧進帳」

2. 本時の学習

(1) 本時の目標 歌舞伎の特徴をおさえながら「勧進帳」のあらすじを理解して楽しみながら鑑賞する。

(2) 準備 教師：教科書

生徒：教科書、ワークシート

(3) 展開 2/2時間目

	主な学習活動	指導上の留意点及び支援
つかむ (5分)	<ul style="list-style-type: none">机を並べ、挨拶をする。前時の学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none">ワークシートを振り返り、歌舞伎の音楽の特徴や見た目について思い出す。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">めあて：歌舞伎を楽しもう</div> <ul style="list-style-type: none">本時のめあてを確認する。	<ul style="list-style-type: none">歌舞伎は少し知識があると楽しく鑑賞できると伝える。
追究する (40分)	<ul style="list-style-type: none">「勧進帳」のあらすじを知る。「勧進帳」を鑑賞する。	<ul style="list-style-type: none">教科書を全員で読み進める。みどころ、おもしろさを知ってから鑑賞をする。難しい言葉の説明をする。鑑賞しながらワークシートにメモしていく。
まとめる (5分)	<ul style="list-style-type: none">鑑賞の感想を発表する。	<ul style="list-style-type: none">感想や歌舞伎の特徴的な表現や音楽など、気づいたことを発表する。(指名)

【評価項目】 (鑑賞の能力 ワークシート・発言・観察)

○歌舞伎の特徴や魅力に関心をもって鑑賞している。(おおむね満足)

◎歌舞伎の特徴や魅力に感心をもち、理解して鑑賞している。(十分満足)

保健体育科 学習指導案

令和元年 10月 4日 第6校時
 1年1組 場所 校庭（雨天時は体育館）
 指導者 T1 田村 健介 T2 反町 真由美

1. 単元名

陸上 短距離走

2. 本時の学習

(1) 本時の目標 短距離走における走り方の課題を見つけることができる。

(2) 準備 教師：教科書、タブレット

生徒：教科書、学習カード、筆記用具

(3) 展開

8 / 9 時間	主な学習活動	指導上の留意点及び支援
つかむ (10分)	<ul style="list-style-type: none"> ○準備体操と補強運動、校庭2周をする。 ○あいさつをする。 ○本時の学習の確認をする 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体で元気よく体操させる ・良い姿勢で、元気の良いあいさつをさせる。 ・前時の授業から、課題と本時の目標を立てる。

めあて 自分の課題を解決して、正しいフォームを身につけよう。

追究する (30分)	<ul style="list-style-type: none"> ○短距離走についての走り方のポイントについて全体で意見を出し合う。 ○班練習をする。 T1(4,5,6班) T2(1,2,3,班) ・30m～50m走 ・クラウチングスタート・ 	<ul style="list-style-type: none"> ・フォーム、クラウチングについて主に考えさせる。 予想される生徒の意見 ・姿勢を徐々に上げる ・クラウチングスタートからの1歩目を大きくする。 ・フォームをビデオに撮る。 ・ローテーションを組み、必ず全員が走りビデオを撮るようにする。 ・タブレットを使い、フォームについて良い点と課題点・改善策について班でアドバイスし合う。
まとめる (10分)	<ul style="list-style-type: none"> ○意見交流をする。 ○次時の学習の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人の振り返りをして班ごとに意見を出し合い発表する。 ・次時に繋がるように課題点をはっきりさせる。

【評価項目】〔技能・表現〕

○おおむね満足

自分の課題を解決する走りができる。

◎十分満足

自分の課題を解決する走りができ、次の課題に取り組むことができる。

(観点・評価方法) 学習カード、観察

朝ごはんを作って家族に振る舞おう！

2年2組・・・令和元年7月 9日（火）3校時

令和元年7月10日（水）2～4校時

■題材 「朝ごはん大作戦！」

～「朝ごはん健康UPパワー」の献立を立てよう～

■本時のねらい ○中学生に不足しがちなカルシウムを摂取できる朝食の献立を立てる。

■展開

(生徒が準備するもの・・・色鉛筆を班に1つ)

学習活動	時間	教師の支援 留意点 (○)		資料等
		T 1 (担任)	T 2 (栄養教諭)	
<p>1 本時の見通しをもつ。</p> <p>○カルシウムを意識した朝食の献立を作成することを知る。</p>	3分	<p>○「朝ごはん大作戦」について説明し、献立作成の見通しをもてるようにする。</p> <p>○中学生に不足しがちなカルシウムを摂取できる献立の必要性に気付かせる。</p>	<p>○中学生のカルシウム不足の現状を表やグラフで伝え、カルシウムの重要性を理解させる。</p>	<p>●カルシウム摂取状況の資料</p>
<p>2 カルシウムを含む食品について確認し、ワークシートに記入する。</p>	7分	<p>○カルシウムを含む食品を発表させることで、様々な食品から摂取できることに気付かせる。</p>	<p>○カルシウムを含む食品を1回に食べる量に換算して多い順から説明することで、様々な食品からバランス良く摂取することの大切さを理解させる。</p>	<p>●食品カード</p> <p>●個人ワークシート</p>
<p>3 朝ごはんの献立を班で1つ考え、ワークシートに記入し、発表する。</p>	25分	<p>○献立作成の手順とカルシウムをとるために工夫した献立を立てることを確認し、班で考えさせる。</p> <p>・班でアイデアを出し合い、班員全員が作れる朝ごはんの</p>		<p>●グループワークシート</p>

	<p>献立を考えさせ、個人のワークシートに記入させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給食委員会作成の基礎食品群を紹介することで、献立を立てやすくする。 ・グループワークシートにカルシウムをとるために工夫した点と絵を書かせることで、献立のできあがりイメージできるようにする。 <p>○机間支援をして、献立が立てられるように助言をする。</p>	<p>○献立が立てられないグループのためにカルシウムの含まれたメニューの写真を黒板に掲示することで献立を立てやすくする。</p> <p>○T1と分担して机間支援をし、上手にカルシウムを摂取できるように必要な助言をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●給食委員会作成基礎食品群表 ●カルシウムの含まれたメニューの写真
	<p>10分</p> <p>○グループワークシート提示しながら発表させることで、カルシウムをとるために工夫した点をクラスで共有できるようにする。</p>		
<p>4 家族のための朝ごはん作りへの意欲を高める。</p>	<p>5分</p> <p>○意欲をもって取り組めるよう助言をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・夏休み中に「朝ごはん大作戦！」を実行する。 ・感想を記入する。 ・朝食の写真を撮り、ワークシートに貼って提出する。写真が撮れない場合は、絵を描く。 </div>	<p>○グループで作成した献立のよさを全体に伝えることで、朝食づくりへの意欲を高められるようにする。</p>	

道 徳 学 習 指 導 案

令和元年 6 月 2 4 日 (月) 第 4 校時
第 3 年 2 組 指 導 者 反 町 真 由 美

- 1 主題名 集団と役割 C - (1 5)
資料名 「全国大会を終えて」 (生徒の手紙)
- 2 本時の学習
 - (1) ねらい
集団における自らの役割と責任を果たして、集団生活の向上に努めようとする態度を育てる。
 - (2) 準 備 資料プリント、学習プリント、実際の手紙
- 3 展 開

過程	主な学習活動と発問	指導上の留意点および支援
つかむ 5分	<p>○集団について考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> どんな集団がすばらしい集団といえるのだろうか。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・まとまりのある集団。 ・協力性のある集団。 ・一人一人の役割が果たされている集団。 ・チームワークを大切にできる集団。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の所属する集団について考えさせる。
追究する 30分	<p>○本時に扱う資料「生徒からの手紙」の主な内容をつかみ、自分がその立場だったらどうするのか考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・補欠でもチームのために精一杯役割を果たす。 ・レギュラーをサポートする。 ・正直一生懸命応援できない。 <p>○資料を読み、内容を確認し、感想を発表する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 筆者が「自分よりもチームの仲間！」と思えるようになったのはどうしてなのだろうか。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・初めて補欠となって補欠の気持ちが分かったから。 ・今までは、自分のことしか考えなかったが、人のことも考えられるようになったから。 ・仲間の大切さを知ったから。 ・他人事のようにしか思えなかった補欠の悲しみを知ったから。 ・大人になれたから。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 筆者は補欠としての役割をどう果たしていったのか。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・『自分が直接活躍することはできなくなっちゃったけど、どうにか私が「復活する」ってがんばって、みんなを後ろから押してあげられる。』こと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の主な内容を伝えて自分が同じ立場だったらどうするのか想像させる。 ・手紙には、どんな内容が書かれているか、大要をつかませ、率直な感想を発表させる。 ・筆者が補欠になってからどういうことを考えられるようになったのか気付かせたい。 ・筆者の心が変わっていくことに気付かせるようにする。 ・「復活する」ってことの意味を気付かせるようにする。
まとめ 15分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> この手紙から学んだことは何か。これからの学校生活で自分の属する集団でいかしていきたいと思ったことは何か。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・補欠になってもその役割を最後まで精一杯やり通すこと。 ・自分も大切だけど、チームの仲間も同じように大切にすること。 ・自分はレギュラーだけど、補欠の人に感謝することも大切だということ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・手紙から学んだこと自分に参考となることをまとめ、今後の自分自身の生活にいかせるようにする。

・自分に与えられた役割を、最後まで精一杯やり通す責任と、集団のために協力することの大切さ。

筆者は、全国大会を見ていてどんな気持ちだったろうか？

・本当はレギュラーとして試合に出たかったと思う。
・みんながうらやましかったと思う。
・どうして私だけがんな思いをしなくてはいけないのだろうかと思う。

・手紙の後半部分を読む。
・教師の話聞く。

・本音の部分を引き出せるように、ゆさぶりの問いかけをするようにする。

・筆者のその後について話す。

4 資料プリント（手紙より抜粋）

【手紙の前半】

前略 私たちが、丸々2年間目指してきた全国大会が終わりました。

今だから言いますが、私は、けがをして良かったのかもしれませんが。私は7月ごろから、もう自分が出られないことに気付いていたんです。自分の足ですから、自分が一番よく分かりました。本当にその時は、頭がおかしくなるほど悲しくて・・・、どうして？って自分自身を責めました。でも冷静になってみると、すごく自分がごう慢だったことに気付いたんです。

『私たちは6人。どうしたって1人は補欠になる。』

この意味が分かっていたんです。

私は今までずっとレギュラーでした。だからこのこと分かっていたつもりでも、やっぱりどこか他人事だったような気がします。けど今回、本当の補欠の悲しみを味わいました。だれにも言えなくて、ずっと1人で悩みました。悔しくて、悲しくて、泣きました。するとこんな事が頭にうかびました。

「みんな一緒につらい中がんばってきたんだから、最後の試合なんて、みんなだれだって出たいんだろうな〜」って。

そしたら、自分が試合に出られないことよりも、この悲しみを他の人に押しつける方がつらい。こう思えたんです。心から・・・。

これには自分でも驚きました。自分だって一生懸命がんばってきたのに、最後の晴れ舞台で自らゆずろうなんて。自分自身にあきれました。お人好しっていうか、まぬけっていうか・・・。でも、同時に「自分よりもチームの仲間！」っていう心が知らぬ間に大きくなっていて驚いて、嬉しくもなりました。けんかもするけど、やっぱりかけがえのない人たちだったんだなって思いました。

私が、けがしなかったらたぶんこんな気持ち味わえずに終わったと思うんです。ずっと、補欠を他人事くらいにしか見れない、冷たい性格のまま。

だから、すごく大人になれた気がしました。

でも、分かっていたつもりでも、毎日の練習の中では、それをまともに受けることができませんでした。そして、たびたび泣きたくなりました・・・。でもチームの中では強くないなきゃと思いました。

『自分が直接活躍することはできなくなっちゃったけど、どうにか私が「復活する」ってがんばって、みんなを後ろから押してあげられる。』これが私にできる精一杯かなって思いました。

こうして一人格闘して迎えた全国大会でした。

【手紙の後半】

もう自分では納得して、みんなに全てたくすつもりでした。

けれど・・・「全然悔しくなかった」と言えば、それはウソになります。だれにも言えませんが、やっぱり私も出たかった・・・。最後の最後でこの気持ちが勝ちました。

それは、今までの私の2年間だと思って許してください。

先生、本当に全てが素晴らしい経験でした。なつかしい話ですが、こんな私を1年生の時、熱心に誘っていただき、本当に感謝しています。入ったのと入らないのでは、一回りも二回りも違った人間だったと今、確信しています。

本当にありがとうございました。

P S 今、つらかった毎日がなつかしいです。

5 評価

怪我をして筆者が変容していく様子を考えることにより、自分の属する集団の中で自分の役割と責任を果たし集団生活の充実に努めようとしている。(発言・ワークシート)

道徳科学習指導案

令和元年10月8日(火) 第5校時
2年1組 指導者 齋藤智

1 ねらい

かけがえのない命を与えられているということに気づいて感謝し、自他の生命を尊重しようとする実践意欲を培う。

2 資料名:「体験ナースを通して」 内容項目:D-(19) 生命の尊さ

3 生徒の実態

本学級は、男子12名、女子13名、計25名である。

本学級では事前アンケートを行った。質問と結果は以下の通りである。

(1) あなたは命をどれくらい大切にしていますか。			
大切にしている	(22名)	少し大切にしている	(0名)
あまり大切にしていない	(0名)	大切にしていない	(0名)
(2) 世間の人たちは命をどれくらい大切にしていますか。			
大切にしている	(7名)	少し大切にしている	(6名)
あまり大切にしていない	(9名)	大切にしていない	(0名)

(1)の質問では、回答した生徒全員が「大切にしている」に回答した。しかしながら、2つ目の質問では、3つに回答が分かれた。これらの結果から、自分は命を大切にしているが世間の人自分ほど大切にできていないと考えている生徒が多いことが分かった。

生徒は明るく素直であり、楽しそうに学校生活を送っている。また、男女の仲がよく、日常の学校生活の中でも周囲への思いやりやそれに対する感謝の念が生まれてきている。しかしながら、時々生徒の口からは「死ぬ」「死にたい」といった言葉を耳にする。命そのものに対する考え方も安易であり、「死ぬ」ということがどういうことかよく分かっていない生徒もいる。「命は大切である」ということは理解しているが、なぜ命が大切なのかということについて考えることは、まだ十分にできてはいない。

4 教材について

本教材は、病院でのナース体験を通して命の尊さについて考えた生徒の体験談である。主人公が赤ちゃんや妊婦さんとかかわる中で、自分の出生や成長、母親へ感謝の気持ちを実感し、命と自他の関わりについて深く考えていく様子が記されており、本学級の生徒と年齢の近い主人公の等身大の感想や思考の流れに触れることができる。かけがえのない命を与えられたことに感謝する主人公の気持ちに共感しながら、生きることの喜び、命の尊さ、親の愛情について考えることができる教材である。

5 問題意識をもたせる導入の工夫

(1) アンケート結果を用いて、生徒の命に対する考え方を共有させる。

(2) 自分の回答と他者の回答を比較させることで、命に対する考え方の違いに着目できるようにする。

(3) 自分と社会の意識の差に着目させる発問をすることで、命を大切にすることについて考える必要感を高める。

6 本時の展開

(1) 展開

過程 (時間)	学習活動 ○主な発問	・指導上の留意点及び支援 ○予想される生徒の反応 ●実際の生徒の反応
<p>導入 (5)</p>	<p>1 本時で扱う道徳的価値について、問題意識をもつ。 ・アンケート結果を提示する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に行ったアンケートの結果を提示し、生徒が現時点で命をどれほど大切にしているのかを具体的に捉えさせる。 ・命を大切にすることについて、自分の回答と他者の回答を比較させることで生徒の考えを揺さぶり、本時のめあてをつかませる。 ・他クラスのアンケート結果も提示して、結果が似ていることを伝える。 <div data-bbox="783 797 1418 1160" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>工夫 (1) <アンケート調査の活用></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「予想通りだ」「全員が自分の命を大切にしている」などの発言があった。 ・2つのアンケート結果を比べる姿が見られた。 </div> <div data-bbox="363 1227 1331 1541" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>工夫 (2) <アンケート調査の活用></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「隣のクラスもきっと同じような結果だろう」という予想する姿が見られた。 ・「私は命を大切にしているが、世の中の人々が命を大切にしているかというところではない。」という気づきを共有することができた。 </div> <div data-bbox="778 1559 1434 1973" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>工夫 (3) <アンケート調査の活用> <道徳的価値に対する揺さぶり></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「時々、死ねという言葉を使っていた。」「言われてみれば大切にしていないかも。」「いや大切にできていない。」という発言があった。 </div> <div data-bbox="312 2000 1418 2080" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【めあて】「命を大切にする」ためにはどのように考えていったらよいのだろう。</p> </div>

<p>展 開 (35)</p>	<p>2 教科書の教材文の範読を聞く。</p> <p>3 教材を通して、道徳的価値についての考えをもち、交流する。</p> <p>○「私」は赤ちゃんにミルクを与えながら、どんなことを感じたのだろう。</p> <p>【インタビューの回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一生懸命生きようとしているエネルギーを感じた。 <p>○なぜ、初めての出産で心細いはずなのに、満面の笑みを浮かべることができたのだろう。</p> <p>【インタビューの回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私は心細くはないし、不安もなかった。なぜなら、生むのは私だが、旦那さんも赤ちゃんも一緒だったから。 <p><中心発問></p> <p>○「私」は、お母さんから出生の様子を聞いたとき、どんなことを考えたのだろう。</p> <p><補助発問></p> <p>○「私」にとって「命を大切にする」とは、どのように考えていくことなのだろう。</p> <p>4 道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてについて考える。</p> <p>○「命を大切にする」ためにはどのように考えていったらよいの</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が教材文を範読する。 ・教材の内容を理解しやすくするために、話の内容を板書しながら範読する。 ・主人公に共感させるために、場面毎に「このとき主人公はどんなことを感じていたのだろうか」と問いかけ、多くの考えや気持ちをイメージさせる。 ・数ヶ月前に出産を経験した方に、事前にインタビューを行い、その回答を生徒たちにも伝える。インタビュー内容は発問と同様である。 <p>○かわいい。</p> <p>○一生懸命生きようとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ずっとこうしていきたい。 ●あたたまる。 <p>○自分の子どもに早く会いたいから。</p> <p>○生まれてくるのが楽しみだから。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●生まれるのがわくわくする。 ●心細さより、嬉しさの方が大きかったから。 <ul style="list-style-type: none"> ・インタビューの回答を伝えることで、「自分のお母さんもそのような気持ちだったのかもしれない」と、生徒に考えさせるきっかけにする。 ・個人の考えをワークシートに記入後、ホワイトボードを用いてグループで意見交流させる。 <p>○不安や恐怖を乗り越えて生んでくれてありがたい。</p> <p>○私は生まれる前から、たくさんの人から愛されて支えられてきた。</p> <p>○自分の命は自分のものだけではなく、多くの人によって生かされてきたと自覚した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●生まれることが楽しみだった。 ●大切に思っている。 ●自分は多くの人に大切にしてもらっている。 ●ありがたい。 <ul style="list-style-type: none"> ・学習のめあてにもどり、改めて気付いたことや考えたことを確認させる。 <p>○支え育ててくれた人に感謝をし、次の命や他人の命を支え育てたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●命は自分だけのものではない。
-------------------------	---	---

	だろう。	●命は多くの人との関わりによってある。 ●新しい命を育てる立場になることを考える。
終末 (10)	5 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。	・振り返る必要性を感じられるように、本時の学習で、自分の考え方にどのような変化が起きたのかを問いかける。
<div style="border: 2px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>【「振り返りシート」の活用】 「今までの自分は」「これからの自分は」という言葉を意識して本日の道徳の授業を振り返りましょう。</p> </div>		

(2) 授業を終えて

①問題意識をもたせる導入の工夫について

- ・自分と他人の2つのアンケート結果を用いることで、生徒の命に対する考え方を全体で共有させるとともに、自分の回答と他者の回答の比較によって命に対する考え方の違いに着目させることができた。
- ・生徒自身のアンケート結果を用いて、他人が自分たちの結果をどのように捉えるかを考えさせたことにより、今までの「命を大切にすること」についての価値観に疑問をもたせることができ、命を大切にすることについて考える必要感を高めた上でめあてを提示することができた。

②「振り返りシート」の活用について

「今までの自分は」「これからの自分は」というキーワードを意識させて書かせたり、「なぜそう思ったのか」という理由を書かせたりしたことで、授業で考えた道徳的価値について自分のこととして捉えて振り返りをしたことが分かる、次のような生徒の記述が見られた。

・生徒 A

・生徒 B

今までの自分は「命を大切にしている」という気持ち
持っていたけれど、今回の授業を通して
行っていたことが、自分自身も大切に
しても授業を通してお母さんが大切に思っている
（生徒は「水」の大切さ、お母さんの大切さ、周りの
人の大切さを改めて気づかされた）
命を大切にしているという気持ちよりも、
強くなりました。水が自分の命を大切にしている
ことにも気づき、自分が母親や先生など新しい命
を育てる立場にあるときにも、同じように大切に
したいです。

今までの自分は、行重かでは、
命を大切にしていると思っていたけど
内心では、悪いことをして来た
こともあって大切にしていけないと思
っていたけど、今回の授業を通して、今
からの自分は、自分の命を大切にしてい
くことも大切だ、周囲の
命も大切にしていかなければと思
いました。自分自身も看護士を目指
しているのだから、命の大切さを
考える良い機会になったので、
とても良かったです。

授業内での変容を自己評価することで、「自分だけでなく他者の命を尊重すること」の大切さに気づくことができた。また、「これからの自分」を考えさせることで、将来の夢や、明日からの行動に結びつけようとする記述が見られた。

③その他 本時の授業についての課題について

活発な議論する活動にするために、主発問を行う際に、導入で高まった問題意識を再度確認する必要がある。

Ⅲ 研究の成果と課題



研究の成果と課題

(1) 成果

生徒が単元を見通すための工夫や、提示する課題を生徒により身近に感じてもらうための工夫など、教科特性に応じながらも生徒の実態にあった取組をすることにより、生徒の主体的に学習に取り組む姿が多くの授業実践で見ることができた。メンター研修について多くの職員から協力を得て推進することができた。教科や年齢を越えた効果的な話し合いをすることができた。

(2) 課題

振り返りの時間を確保できない授業実践もあった。また、教師の考える姿とは異なった振り返りの記述も見られた。振り返りについての共通理解と研修が必要である。B訪問では単元を通した課題についての話があった。はばたく群馬の指導プラン2にもあるように、新学習指導要領の本格実施に向けた準備をするためにも、全ての教科で実施することを目指していきたい。

(3) 課題解決に向けての今後の取組

振り返りについて、まだ研修を継続する必要があるので、教科特性に応じた振り返りについて研修を更に深めていく。単元を通した課題については、本校ですでに取り組んでいる教科もあったので、先行事例を元に研究を深め、次年度に向けて準備をしていく。

IV 学校要覧



資料1

各教科における学習課題の工夫

令和元年度 沼田市立薄根中学校

教科	【目指す生徒像】○主体的に学習に取り組む生徒の育成
国語	○1年：学校案内リーフレットをつくろう 新入生に薄根中学校を理解してもらえるように、既習事項を生かして、構成を工夫したり効果的に図や表を入れたりしながら、分かりやすいリーフレットをつくる。 ○2年：小さな手袋・平家物語・走れメロス等（文学的文章） 物語の転換点を「もし〜であったら」と違う展開を考えさえ、どのようになっていたか想像させるとともに、仲間との交流を通して読みを深める。 ○3年：新聞記事を読み比べよう 新聞記事を読み比べながら、分析するとともに、記事内容に対して批評する。（NIE の活用）
社会	○1年歴史的分野、埋蔵文化センターから土器を借用し、縄文土器と弥生土器の違いをさわりながら比較する。 ○2年地理的分野、「身近な地域の調査」の単元で沼田市を調査する。 ○3年公民的分野、「地方自治」の単元で選挙管理委員会からリーフレットをいただき授業に活用する。
数学	○1年「比例と反比例」で自分の生活の中から比例・反比例の例を考える。 ○2年「連立方程式」連立方程式をつかって生徒を受け入れた福祉関係と販売関係の事業所の数を求めよう。
理科	○1年「大地の変化」課題：沼田市の地質を考えよう 教科書で学んだ知識を活用し、沼田市の地形の成り立ちについて考える。 ○2年「天気」課題：露点に関わる自然現象を探して説明しよう 露点について学んだ知識を活用し、実際の自然現象との関連や原理について説明する。 ○3年「化学変化とイオン」課題：酸性を決めるイオンは何だろうか 酸性の物質にはどのようなイオンがあるか予想を立て、酸性の元となるイオンを実験によって見いだす。
英語	○1年「Unit6 オーストラリアの兄」課題：家族を紹介しよう 新出言語材料を用いて自分の家族の紹介文を書く。 ○2年「A trip to the U.K.」課題：日本の観光地を紹介しよう 既習事項を用いて、日本の観光地をALTに紹介しよう。 ○3年「Presentation2 修学旅行」課題：修学旅行について発表しよう 修学旅行で見たり感じたりしたことを、既習事項を用いて原稿を書き、発表する。
体育 保健	○自ら課題を発見する活動 ○課題の解決方法を話し合える活動 ○メディアの適切な利用ができる活動 ○自己評価をして成長を振り返る活動 ○自ら計画を立てる活動
音楽	○鑑賞活動に対する興味や関心を高める活動 ○音楽のよさや美しさを見いだす見通しをもつ活動 ○対象となる音楽に自分の意識に向けて聴き、喚起されるイメージや感情を自覚する活動 ○学習を振り返り、学んだことや自分への影響を自覚し、次の学びにつなげる活動
家庭	○現在及び将来を見据えて、生活や社会の中から問題を見だし課題を設定する活動 ○見通しをもって解決に取り組む活動 ○学習の過程を振り返って実践を評価・改善して、新たな課題に主体的に取り組める活動
道徳	○問題意識をもつ活動 ○自分自身との関わりで考える活動 ○自らを振り返る活動 ○道徳的行為に関する体験的な学習等を適切に取り入れる活動 ○体験的な活動を通じて学んだ内容の意義などについて考えることができる活動 ○特別活動等における多様な実践活動や体験活動を活かす活動。

※活動の例とし、各教科の単元の中で生徒が主体的に学習する課題を考えていく。



薄根中学校

学習のてびき

はじめに

誰もが「できるようになりたい」と考えている学習には「コツ」があります。コツをつかむことで、短い時間でも十分な効果をあげることができます。ここに書かれていることを実践し、自分に合う学習方法を見つけていきましょう。

授業では・・・

○チャイム着席を心がけましょう。準備・教室移動は5分前に。

○道具がすべてそろっているよう、連絡黒板の内容をライブに書きましょう。

○先生の話をよくききましょう。
3つの『きく』①聞く ②聴く ③訊く(質問)

○ノートを取りましょう。
黒板の文字の他にも授業の疑問点や先生の話などを一緒に書き込んでおきましょう。

○よい姿勢を心がけましょう。

○積極的に発言や課題、実験をしましょう。
自主的に動くことが一番効果的な学習です。

家庭では・・・

○翌日の準備を前日にしましょう。
「ちょっと余裕がある」と学校生活を楽しめます。

○宿題を最優先させましょう。

○学習開始時刻を決めておくと、それが習慣になります。

○家庭学習の基本は復習です。今日習ったことや、テストに向けての学習をしましょう。

○予習をしておくと、授業が「内容が分かっていて良い気分」で受けることができます。

○学習する部屋や場所を決めておくとよいです。
なるべく机と椅子がある場所がよいです。
(長時間座っていただける場所がベスト)

○ながら勉強にならないよう気をつけましょう。
(TV、音楽、動画、SNSなど)

○学習よりも注意の向いてしまうものを近くに置かないようにしましょう。
(ゲーム、マンガ、音楽プレイヤーなど)

○学習したものを自主勉強として提出しましょう。
学習は誰かに認めてもらったことが自信につながります。

テスト前には・・・

○出題の範囲を確認！傾向をつかみましょう。
「先生は、どんな問題を出すだろう？」と考えてみよう。

○教科書やワークの問題は要チェック！
(↑ここから出る)

○テストに間に合うように準備をしましょう。

「前日に徹夜」よりも
「2～3週間前から余裕をもって」。

○「分からない」をテストまでに「分かる」に変えましょう。

○時間が経つと覚えていたことも忘れます。確認を忘れずにしましょう。くり返し覚えたり問題を解いたりすることで効率良く覚えることができます。

国語科編

授業

- 授業に集中できるよう、積極的な姿勢で授業にのぞもう。
- 準備をしっかりし、提出物を必ず仕上げよう。
- 丁寧な文字で書き、習った漢字は積極的に使い、色を工夫したり独自のメモを加えたりして充実したノートを作ろう。
- 積極的に発言・質問しよう。人の話をうなずきながらしっかり聞こう。

復習

- 新出漢字・全学年の漢字の練習・テストをしよう。
(間違っものは再度練習、書き順にも注意)
- 学習したところの文章を繰り返し読もう。
- 単元で出てきた難しい語句の意味を調べ、短文を作ろう。

テスト対策

- 日々の授業で主体的に考える習慣をつけておく。
- ワークやプリント等に取り組み、テスト前に見直しておく。

その他

- 作文や新聞記事の感想などいろいろな文章を書く
- 手紙を書く ○資料集で勉強する ○漢字検定に挑戦する
- 読書をする (自分の力に応じて、少し難しい本、代表的な日本文学の本や外国の本等)
- 古典作品や詩を暗記する。 ○学んだ敬語を積極的に使う
- スピーチ練習 (録音をしてきく) ○教科書以外の漢字やことわざ、四字熟語、慣用句、故事成語など書き取って覚える。

数学科編

授業

- 自分で考える、友達と一緒に考える、考えたことを発表したり説明したりしよう。
※積極的に発表する・考えることが、数学を楽しむコツです。
※数学を楽しむことが理解への近道です。
- 疑問点はすぐに質問。授業中に「？」はなくしておこう。

復習

- ノートとプリントでその日の授業を振り返ろう！
ポイントはどこだったかな？
- その日解いた問題の類題を解いてみよう。
- 計算など練習問題をたくさんしよう。

テスト対策

- 教科書やワークの問題を中心に、繰り返し問題を解いてみよう。
- 自主勉強のノートや振り返りカードを通して、不明な点等を積極的に質問しよう。

その他

- 丸付けまでが大事な勉強。しっかりと確認しよう。
- 間違いを大切に、正しい解き方や考え方を身に付けよう。
<<間違え→どこが違うのか確認する>>

★今が数学好き、得意になるチャンス!!!一緒にがんばろう★

社会科編

授業

- 授業前に前回学習した内容を確認しておこう。
(特に歴史は前の時間とのつながりが大きい!)
- 次回学習する教科書の場所を必ず読んでおこう。
- 読んで意味の分からない言葉は国語辞書・用語事典で調べて意味調べしておこう。
- 複数の資料を結びつけて読み取ろう。
- 読み取ったことから時代や地域の特色を考えよう。

復習

- ノートを見直して学習内容を確認しよう。
- ワークを使って問題練習をしよう。
できなかった問題は何回も解こう。

テスト対策

- 教科書やノートを読み返そう。
- ワークを使って問題練習をしよう。
できなかった問題は何回も解こう。
- 一度やった単元テスト等、繰り返し復習しよう。

その他

- 新聞やニュースを読んだり見たりしよう。
- テレビで見た国や地域を地図帳で調べよう。
- 歴史小説を読んでみよう

理科編

授業

- 理科は、「未知」を「発見」して「調べる」学問です。
授業での発見の喜びを楽しみましょう。
- 授業は前の時間の続きです。続きが分かるように、忘れ物がなないようにしましょう。
- 観察・実験を人まかせにせず、自分から参加しましょう。
- 自分の予想・意見をもって発言し、授業に参加しましょう。

復習

- 観察・実験の目的や方法、結果、考察等を中心に、ノートやファイルを見直し、整理してみましょう。
- ワークで学習内容が身に付いたかチェックしてみましょう。
- 用語や言葉が理解できているか確認して下さい。

テスト対策

- 先生が出題する問題を予想してみましょう。
- 教科書やノート、ファイルをもう一度見直しましょう。
- テスト範囲のワークを3回やってみましょう。
(くり返すことで脳は覚えます!)
- 単元テストをもう一度見直しましょう。

その他

- 理科の資料集をながめるのも良い勉強です。
- 科学番組や雑誌、本を見てみましょう。
- 自由研究や理科研究発表会(11月)に挑戦してみましょう。
(理科の先生に相談)

英語科編

授業

- ノートに予習をしよう。
 - ①新しい単語を調べる
 - ②教科書本文を書く
 - ③本文の意味を考えてノートに書く

- 先生や友達の発言は、顔を見て聴こう。
- 大きな口と声で、英語を話そう。(間違えてもOK!)
- ゲームなどの活動は、ルールを守って大いに楽しもう。

復習

- Bノートに単語・基本文の練習をしよう
- 音読練習をしよう。

テスト対策

- キーセンテンスを繰り返し復習しよう
- プリントや単元テストやワークを繰り返し復習しよう

その他

- ◎学習したことを用いて、自分ことや身の回りのことについて表現してみよう。
(日記、自己紹介、他己紹介、沼田の紹介、日本や日本文化の紹介等)
- 英検など、各種検定試験に積極的に挑戦しよう。

保健体育科編

授業

- 【体育】
 - 各種の運動の特性に応じた技能等及び個人生活における健康・安全について理解すると共に、基本的な技術を身につけよう。
 - 運動について自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断すると共に、他者に伝えよう。
 - 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の役割を果たす、1人1人の違いを認めようとするなどの意欲を持とう。
 - 健康・安全について留意し自己の最善を尽くして運動しよう。

【保健】

- 個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身につけよう。
- 健康についての自己やチームの課題を発見し、より良い解決に向けて思考し判断するとともに他者に伝える力を身につけよう。
- 生涯を通じて心の健康の保持増進を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を身につけよう。

その他

- テレビ・パソコン等でトップアスリートの体の動かし方を観て真似してみよう。
- 保健に関わる情報についてニュース・新聞を意識して生活してみよう。

家庭科編

授業

- 黒板の内容をしっかりとノートに書き写そう。
- 先生や友達の意見をよく聴こう。
- 学んだ知識をいかし、実習で技能を身に付けよう。

その他

- 学習したことを家庭で実践してみよう。
- 料理、ミシン、アイロンがけなど、自分のことをやってみよう。

技術科編

授業

- 実習をしっかりと受けよう。作品は作ろう。
- 日常生活に役立つものを考えよう。
- 制作は安全に。

その他

- 日常生活で使えるものづくりを家でもしてみよう。
- プログラミングやキーボード練習は家でもできます。

美術科編

授業

- 作品をしっかりと作ろう。
- 分からないところは先生に聞きながら作ろう。
- 色やデザインには理論・理屈がある。それを学ぼう。
- 鑑賞は積極的に良いところを探そう。

その他

- 有名な作品を見たり、同じ作者の様々な作品を見てみよう。
- 夏休み、冬休みなどに作品作りに挑戦しよう。入選作品を見て良いところを真似してみよう。

音楽科編

授業

- 音楽用語を覚えるととても楽しいですよ。
- 鑑賞は情景を楽しみながら。
- 合唱は歌詞と音を早く覚えよう。

その他

- 歌や楽器を家でも楽しんでみましょう。
クラシックも聴いてみませんか?